

なぜエルゼビアはボイコットを受けるのか

上田修一（前慶應義塾大学）、横井慶子（東京工業大学附属図書館）
ueda@z5.keio.jp

医学や科学技術を中心に多数の学術雑誌を出版するエルゼビア社は、世界中の図書館を市場として毎年、莫大な収益を上げてきた。これまでエルゼビア社に対して大学図書館や研究者による強い批判がなされており、日本でも同社の提供するプログラムから離脱を図る動きがみられる。エルゼビア社がどのようにして現在のような存在になったのか、学術情報伝達に大きな影響をもたらすようになった理由、そして出版社を除いた伝達モデルへの移行の可能性について取り上げる。

1. はじめに

学術雑誌の主要な編集刊行機関として、学会、大学、それに出版社がある。学会や大学は非営利組織であるが、次第に商業出版社としての性格が強くなる傾向がある。

現在の日本の国内の状況がそうであるように、1950年代までの欧米の学術雑誌の編集刊行に携わる出版社も、分野別に存在しており、一般に小規模であった。しかし、現在では、様相が一変し、大きな出版社があらゆる分野の多数の学術雑誌を編集刊行するという寡占状態がみられる。

大規模大学の図書館は、図書館資料費の大きな部分を外国雑誌の購入にあててきた。外国雑誌購入にあたっては、1970年代から1980年代にかけて外国の出版社が設定する地域格差や代理店の設定した換算レートなど「差別価格問題」と呼ばれた日本特有の問題があり、図書館が過大な出費を強いられた時期があった。そして、欧米で刊行される主要学術雑誌のほとんどは電子ジャーナルとなり、出版社は、ビッグディールなど新しい価格コントロールの手法を見出した。それに対して、図書館側はコンソーシアムと呼ばれる連携組織を作り有利な条件で契約できるよう努力しているが、価格の問題は解決していない。

今では、日本だけでなく、各国の学術図書館は、学術雑誌購入のために、多額の費用を費やさざるを得なくなっている。高騰する雑誌購入費用は、図書館資料費だけでなくその親機関、すなわち大学図書館であれば大学の運営費にも大きな影響を及ぼす事態となっている。

このような状況になったのは、少数の巨大な出版社が、雑誌価格について支配力を持っているためである。ここで、取り上げるエルゼビア社は、こうした出版社の代表例であるが、また、同社特有の側面も存在する。エルゼビア社は、その雑誌の出版販売方法に対して何回も批判を受けてきた。最近もその事例がある。ではなぜ、エルゼビア社は始終、批判を浴び、図書館や研究者からボイコットを受けるのだろうか。

2. 調査方法

文献やウェブの情報源に基づくが、聞き取り調査と引用データの集計も行った。

聞き取り調査の対象は、国内の大学図書館で、電子ジャーナル購入状況と今後の電子情報源の財源確保の見通しを尋ねた。

学術雑誌全体の中で同社刊行の雑誌のシェアを見ることができればよいが、学術雑誌の総数を知ることは困難であるため、ト

ムソン・ロイター社の JCR (Journal Citation Report)を用いた。JCR は、2013 年 7 月現在で 83 か国 10,854 誌の雑誌評価データを掲載している。雑誌は、232 領域に分かれているが、医学、理学、工学各 20 領域、社会、人文各 10 領域を選定、各領域毎にインパクトファクター上位 10 誌を選び、これら計 800 誌の出版社を記録した。さらに、比較のため自然科学(JCR Science Edition)は 1999 年、社会人文科学(JCR Social Sciences Edition)は 2000 年について、同様の作業を行った。

3.エルゼビア社の実力

エルゼビア社 (Elsevier B.V.) は、1880 年にオランダのロッテルダムで設立された出版社であり、現在の本社はアムステルダムにある。親会社は、リード・エルゼビア社である。リード・エルゼビア社には現在四つの部門があり、学術雑誌出版はその一つである。日本を含む 24 か国に支社があり 7,000 名が働いている。Lancet や Cell といった著名な医学雑誌をはじめとして、全分野にわたる学術雑誌約 2,500 誌を編集刊行し、Gray's Anatomy のような多数の教科書や事典などを出版、電子ジャーナルのコレクションである Science Direct を提供している。

エルゼビアの『年報』によると、2012 年中に 100 万件の投稿があり、1 万人の編集者が査読と選定の作業にかかわり、33 万論文が掲載され、これらに 1,100 万人がアクセスし、7 億件のダウンロードがある¹⁾。エルゼビアは、世界知的所有権機関(WIPO)が行っている発展途上国 107 か国に学術雑誌を無料あるいは低額で学術雑誌を提供する計画に協力している²⁾。

エルゼビアは、第二次大戦後に科学技術雑誌出版を活発に行った欧州のいくつかの出版社の一つである。1970 年代から拡大を図り、ノースホランド社と合併し³⁾、次いで医学の抄録誌を刊行していたエクサプタ・メディカ社、さらに、臨床医学分野の雑誌を獲得した。また、雑誌の電子化を目指す ADONIS 計画を開始した。

1980 年代末に学術雑誌出版は危機を迎えた。ロバート・マクスウェルは、買取による学術雑誌の誌数拡大という面で第二次大戦後、長くエルゼビアのライバルであった⁴⁾。エルゼビアは、1991 年にマクスウェルの所有していたパーガモン社を買取して 400 誌を得ることができた。この結果、最多のタイトル数を持つ出版社となった。そして、1995 年には Lexis/Nexis を傘下に納め、2001 年にはアカデミックプレスやサンダースを含むハーコートを買取している⁵⁾。

リード・エルゼビアの売上と純利益を表 1 に示した。

表 1 リード・エルゼビア社の業績

売上	2000年		2012年		年平均増加率
科学, 医学	693	18.4%	2,063	33.7%	9.5%
法律	1,201	31.9%	1,610	26.3%	2.5%
教育	202	5.4%			
ビジネス	1,672	44.4%	663	10.8%	
リスク管理			926	15.1%	
展示			854	14.0%	
計	3,768	100.0%	6,116	100.0%	4.1%
純利益					
科学, 医学	252	31.8%	780	44.4%	9.9%
法律	237	29.9%	234	13.3%	
教育	40	5.0%			
ビジネス	264	33.3%	119	6.8%	
リスク管理			392	22.3%	
展示			210	12.0%	
その他			22	1.3%	
	793	100.0%	1,757	100.0%	6.9%
単位：100万ポンド					
出典：Reed Elsevier Annual Report					

「科学、医学」が学術雑誌刊行部門にあたる。全部門の売上額が2012年で61億ポンド（当時の円換算で7,700億円）の大企業であること、2000年と2012年を比較すると、雑誌部門が同社の売上でも純利益でも全体に占める割合が第一位となっていること、また、雑誌部門は年平均で10%近い成長率で推移してきたことがわかる。国際的な巨大企業となったリード・エルゼビア社は、学術雑誌刊行を中核とし、その成長も雑誌によって支えられている。

それでは、エルゼビアの刊行する雑誌は、学術雑誌全体の中でどのような状況にあるのだろうか。

前述のように、JCRから分野別にインパクトファクターの高い雑誌を10誌ずつ選んで、主要出版社別に集計した。表2に分野によって集計した結果を示した。例えば、2012年の数学分野の三つの領域の1位から10位までの計30誌の中にエルゼビアは6誌、シュプリングーは10誌、ワイリーは3誌が含まれていることを示す。

1999/2000年と2012年を比較すると、これらの12出版社の占める割合が45.2%から56.2%と増えており、少数出版社による寡占化が進んでいることがわかる。エルゼビアは、1999/2000年でも第一位であるが、2012年にはさらにシェアを上げている。一般にどの領域でも、評価の高い（引用数の多い）雑誌の1/4はエルゼビアの雑誌である。エルゼビアは生物医学分野に注力してきたし、現在も医療が中心であると考えられる⁹⁾が、実際には、医学よりも工学における雑誌数が多い。

分野や領域を限定せず、網羅的である出版社は、エルゼビアの他には、シュプリングーとワイリーの二社のみである。人文社

会科学分野においては、特定出版社への集中は見られない。この分野の研究者は、学術雑誌出版社が引き起こしている問題を理解しにくいと予想される。

インパクトファクターによる順位別に雑誌数を表3に示した。点数は、1位を10点、10位を1点のように点数化して平均したものである。2012年には、Annual ReviewとNatureが出版する雑誌が高得点だったが、その他は、差が見られなかった。つまり、エルゼビアの雑誌は、他の出版社の雑誌よりもインパクトファクターが高いとは言えない。

4. エルゼビアボイコット

大学図書館がエルゼビアに対して行った抗議行動として次のような事例がある。

=====

2000年5月に国立7大学附属図書館長からエルゼビアに対して、円価格問題と並行輸入問題に関する要望書を送付した。

2000年12月に私立大学図書館協会、日本医学図書館協会、日本薬学図書館協会がエルゼビアの円建て価格が独占禁止法に抵触する恐れがあると公正取引委員会に調査を要請した。

2003年11月 米国コーネル大学図書館がエルゼビアの販売政策に抗議して200誌を購読中止した。

=====

ケンブリッジ大学の数学者であってフィールズ賞受賞者のティモシー・ガウアーズ (Timothy Gowers) は、2012年1月に自分のブログでなぜ長期にわたってエルゼビアの刊行する雑誌に協力しないのかその理由を述べ、最後に「このような賛成しかねる方法をとる出版社は、エルゼビアだけで

はないが、同社が最悪である」と書いた⁷⁾。

これは大きな反響を呼び、エルゼビアボディコットを呼びかけるウェブサイト「The Cost of Knowledge」を作り署名を呼びかけたところ、数多くの研究者がこれに応じた。エルゼビアを糾弾する理由は、雑誌価格が高額であること、セット販売、それに米国の「研究成果法案」(Research Work Act)、「オンライン海賊行為防止法案」(SOPA)、「知的財産保護法案」(PIPA)制定への支援である。

「研究成果法案」は、民間企業による学術論文出版への政府干渉を排除しようとするもので、オープンアクセスを牽制する性格を持っている。批判を受けて2012年2月にエルゼビアは、同法案支持を撤回し、その数時間後に同法案提案議員らは、立法化を断念した。なお、同法案は米国出版社協会(AAP)も支持していた。その後、エルゼビアから法案提出議員の一人に対して何回もの政治献金があったことが明らかになっている⁸⁾。

5. エルゼビアの包括契約からの離脱

東邦大学メディアセンターは、2008年度からエルゼビアの雑誌について包括契約をやめ、個別契約とし、ペーパービューで補う。2011年の費用は、2007年に比べて40%減少したと報告している⁹⁾。

兵庫医科大学図書館は、2013年4月からエルゼビアとの包括契約を止めて主要タイトルのみを年間契約としてそれ以外は、トランザクション方式(ペーパービュー)とすることにした。後者の費用も図書館予算で支出する¹⁰⁾。

名古屋大学附属図書館は、2014年度からElsevierの電子ジャーナルを包括契約から

特定タイトル(約370誌)のみ読むことができる契約に変更することになった。それ以外のタイトルについては、ILLやペーパービューで対応する¹¹⁾。中央大学図書館もエルゼビアの包括契約をやめる¹²⁾。

6. エルゼビアと雑誌出版社の問題

名古屋大学附属図書館などが、包括契約をやめて、個別契約に移行するのは、高価格と値上げに対応するためのセット販売からの離脱であるといえる。

その結果、図書館からみたエルゼビアなど学術出版社の最大の問題は、毎年の値上げであることが再確認される。

商業出版社の交渉相手は、通常、図書館であり、図書館は、毎年の価格上昇分を様々にかき集めてきて凌いでいる。こうした図式が何年も続いてきたが、次第に綻びをみせている。

国立大学図書館は、電子情報源購入について短中期計画を立てて手当をしようとしている。しかし、価格上昇、為替状況、消費税増税などを勘案すると、従来のような契約はもはや維持できないと判断した名古屋大学附属図書館のような例が増えると予想される。一方、私立大学では、短中期計画を持つ図書館は少ない上に国立大学のような全学共通経費がない。

いずれにしても大規模大学の運営側は、多額な経費を要する多様なプログラムを抱えているため、電子ジャーナルへの対応には消極的になりつつある。

では、雑誌価格が高く毎年値上げすることに妥当な理由があるのだろうか。

出版社は、初期には、印刷費、紙代、郵送費の値上げが原因としていた。その後は、電子ジャーナルの開発費用だった。エルゼ

ビアは、ガウアーズらの値上げ批判に対して、確かに流通や印刷の費用は削減されたが、電子化によってサーバーの増設、ウィルス対策、査読システムの開発に費用がかかるようになったと弁明している¹³⁾。

表1のように、エルゼビアの雑誌部門は、毎年平均して10%の成長を遂げている。雑誌の値上げは、学術雑誌価格調査によると2011年は年7.5%、2012年は5.8%であるが¹⁴⁾、それ以上の成長率である。

ガウアーズらは、前述のようにエルゼビアの問題として、高価格と値上げ、セット販売、反オープンアクセス運動をあげている。

たしかに、エルゼビアは2005年頃まではオープンアクセス誌に対して懐疑的な立場をとっていた。だが、近年ではセルフアーカイビングに代表されるグリーンOAには明らかに反対の立場をとるものの、オープンアクセス誌には賛同する立場をとり始めている。既に30誌以上のオープンアクセス誌を刊行し、2014年からは7誌の既存の購読誌をオープンアクセス誌へ切り替えている。2012年のOAジャーナルによる収入は600万ドルで前年の60%増と推計する報告も出ている。

オープンアクセス誌が商業雑誌に置き換えられれば、エルゼビアにかかわる現在の価格問題は解消するが、それはかなり先にならざるを得ない。しかも、その際に、オープンアクセス誌市場が、再びエルゼビアなどによる寡占状態となっていれば、論文処理料(Article Processing Charge)などを通じた価格支配が起きる可能性がある。

エルゼビアが、学術雑誌の編集刊行配布を通じて、学術情報の流通に貢献してきたことは疑いないところである。ただ、この

ことがエルゼビアにとっての最優先の目的ではないことも明らかである。エルゼビアは国際的な大企業となり、大企業特有の行動をとっている。その経営陣の目は株主に向いており、研究者でも図書館でもない。

引用文献：

- 1) Reed Elsevier. Annual Reports and Financial Statement 2012.(ウェブページ参照：2014-02-01)
- 2) WIPO.ARD-Research for Innovation. (ウェブページ参照：2014-02-01)
- 3) Elsevier, N.V. A short history of Elsevier. Elsevier, 2005..30p.
- 4) トム・バウアー、山岡洋一訳. 海に消えた怪物. 文藝春秋, 1992. 579p.
- 5) Einar H. F. ed. A century of science publishing. Amsterdam, IOS Press, 2001. 312p.
- 6) Brynko, Barbara. Mobed: Elsevier's Next Steps. Information Today. vol.30, No.3, p.1-33. 2013
- 7) Elsevier - my part in its downfall(ウェブページ参照：2014-02-01)
- 8) Harvard Open Access Project (HOAP). Notes on the Research Works Act. (ウェブページ参照：2014-02-01)
- 9) 吉田杏子. 東邦大学における外国雑誌価格高騰への対応. 薬学図書館. vol.57, no.1, p.25-30, 2012
- 10)兵庫医科大学図書館. Elsevier 社の電子ジャーナルサイエンス・ダイレクトの利用方法変更について.(ウェブページ参照：2014-02-01)
- 11)名古屋大学附属図書館. 02-01 [電子ジャーナル] Elsevier 社電子ジャーナルの契約変更について.(ウェブページ参照：2014-02-01)
- 12)中央大学図書館. 4月1日より Science Direct の利用範囲が変わります.(ウェブページ参照：2014-02-01)
- 13)Editorial : A response from Elsevier. Geoforum. 2012. vol.43, p.659-661.
- 14) Tillery, Kodi. 2012 Study of Subscription Prices for Scholarly Society Journals.

表2 分野別，領域別雑誌数

1999/ 2000年	理学								医学		工学	人文	社会	総計	
	数学	物理学	化学	生物学	地学	農学	共通	計	基礎	臨床					比率
	30	30	30	40	30	20	20	200	100	100	200	100	100	800	
AR		1		3			1	5	4	2	4	2	1	18	2.3%
CUP				1		1		2	2	2	1	4		11	1.4%
Elsevier	2	9	11	12	7	8	2	51	19	18	56	9	5	158	19.8%
IEEE		3						3			38			41	5.1%
IP	2	1						3			3	1	1	8	1.0%
LWW									11	18		1		30	3.8%
Nature									3	1				4	0.5%
OUP	1			1				2	1	6	1	4	3	17	2.1%
Springer	8	5	2		2	3	1	21	6	1	11	2	2	43	5.4%
Taylor	1	2	3			1		7	1		7	5	4	24	3.0%
UCP				1	1		1	3		2	2	4	6	17	2.1%
Wiley	5	4	5	7	3	1	6	31	13	11	9	9	8	81	10.1%
計	19	25	21	25	13	14	11	128	60	61	132	41	30	452	56.5%

2012年	理学								医学		工学	人文	社会	総計	
	数学	物理学	化学	生物学	地学	農学	共通	計	基礎	臨床					比率
	30	30	30	40	30	20	20	200	100	100	200	100	100	800	
AR		1	2	3	1		1	8	6	1	9		1	28	3.5%
CUP						1		1		1		1		10	1.3%
Elsevier	6	5	13	8	8	6	1	47	18	21	81	6	5	193	24.1%
IEEE											39			39	4.9%
IP		4						4			6		4	10	1.3%
LWW									10	11				21	2.6%
Nature		2		2			1	5	12	10	3		2	30	3.8%
OUP				2			1	3	2	11				26	3.3%
Springer	10	2		1	3	4		25	7	2	13	4	2	60	7.5%
Taylor		2	5		2			6			4		2	27	3.4%
UCP			2	1	1			2						6	0.8%
Wiley	3	9	1	8	4	5	7	37	17	15	12	5	9	112	14.0%
計	19	25	23	25	19	16	11	138	72	72	167	16	25	562	0.703

単位：タイトル数

注：AR:Annual Review, CUP:Cambridge University Press, IP:Institute of Physics, OUP:Oxford University Press, UCP:The University of Chicago Press

表3 順位別タイトル数と点数

	2012年度順位別タイトル数										点数	
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	2012年	1999/ 2000年
	AR	12	4	5	1	3		1		1	1	8.14
CUP	1	1	2	2	1				1	2	5.90	6.27
Elsevier	17	17	19	24	23	15	26	18	16	18	5.51	5.74
IEEE	3	4	5	3	4	4	4	5	3	4	5.44	5.54
LWW	1	2	1	1	1	4	2	3	4	2	4.57	5.23
Nature	10	5	2	1	3	4	1	3		1	7.33	4.75
OUP	1	3	3		5	1	6	2	2	3	5.12	5.88
SAGE	3	6	3	1	2	7	2	4	2	2	5.88	4.75
Springer	3	2	4	11	4	7	6	4	10	9	4.68	6.51
Taylor	4	3	1	3	3	3	1	3	3	3	5.59	5.58
UCP			1	1	2				1	1	5.00	5.12
Wiley	6	15	9	13	8	12	11	11	15	12	5.22	5.51